



roundabout™

# サンプル解説書

---

－ samples フォルダ内のコンテンツを解説 －

ver. 1.0.3

2009/02/17

## 目次

設定ファイルの変更について .....	3
基本編 サンプル 01 - 画像 .....	6
基本編 サンプル 02 - テキスト・その他 .....	7
基本編 サンプル 03 - フォーム .....	8
基本編 サンプル 04 - リッチコンテンツ .....	9
基本編 サンプル 05 - Durian Channel .....	10
基本編 サンプル 06 - SPORTS NOW .....	11
基本編 サンプル 07 - Poptune Online Store .....	12
基本編 サンプル 08 - BIKE KING .....	13
上級編 サンプル 01 - アパレルオンラインストア .....	14
上級編 サンプル 02 - PCショップ .....	15
上級編 サンプル 03 - SNSプロフィール登録 .....	16
上級編 サンプル 04 - SNSマイページ .....	17
上級編 サンプル 05 - PC対応 .....	18
上級編 サンプル 06 - BIKE KING (QVGA) .....	19

## 設定ファイルの変更について

/samples/フォルダ以下の html を正しく表示するためには、ラウンドアバウト設定ファイルの編集が必要になります。

尚、ここでは DocumentRoot を /usr/local/apache2/htdocs/ とします。

■ roundabout-vhost.conf の <IfModule mod\_ralc.c> ~ </IfModule> 内の #for Samples 以下の下記設定箇所のコメントアウトを外してください。

※ samples を /usr/local/apache2/htdocs/ 直下以外に配置した場合は、各 Location ディレクティブ内の RALCConversionSheetFile、RALCGlyphConversionSheetFile のパスを編集してください。

※ 設定全般に関する詳細は Apache 設定リファレンスを参照ください。

設定箇所:

```
#for Samples
#
#<Location "/samples/02_advanced/">
# RALCConversionSheetFile /var/roundabout/conf/conversion.csv
# RALCConversionSheetFile /usr/local/apache2/htdocs/samples/02_advanced/original-conversion.csv
# RALCGlyphConversionSheetFile /var/roundabout/conf/glyph-conversion.csv
#</Location>
#<Location "/samples/02_advanced/sample01/">
# RALCConversionSheetFile /var/roundabout/conf/conversion.csv
# RALCConversionSheetFile /usr/local/apache2/htdocs/samples/02_advanced/original-conversion.csv
# RALCGlyphConversionSheetFile
# /usr/local/apache2/htdocs/samples/02_advanced/sample01/color-glyph-conversion.csv
#</Location>
```

設定変更後、Apache を再起動してください。

「上級編 サンプル 05-PC 対応」、「上級編 サンプル 06-BIKE KING (QVGA)」については上記以外にも設定が必要です。次項の設定を行ってください。

## 「上級編 サンプル 05 - PC対応」を正しく表示するための設定

---

02\_advanced sample05 では個別の絵文字変換シートが用意されています。デフォルトの設定では個別設定を行っていません。ここでは 02\_advanced sample05 にだけ個別の絵文字変換シートを適用されるようにします。

尚、ここでは DocumentRoot を /usr/local/apache2/htdocs/ とします。

■ roundabout-vhost.conf の `<IfModule mod_ralc.c> ~ </IfModule>` 内の `#for Samples` 以下の下記設定箇所のコメントアウトを外してください。

※ samples を /usr/local/apache2/htdocs/ 直下以外に配置した場合は、各 Location ディレクティブ内の

RALCConversionSheetFile、RALCGlyphConversionSheetFile のパスを編集してください。

※ 設定全般に関する詳細は Apache 設定リファレンスを参照ください。

設定箇所:

```
#<Location "/samples/02_advanced/sample05/">
# RALCConversionSheetFile /var/roundabout/conf/conversion.csv
# RALCConversionSheetFile /usr/local/apache2/htdocs/samples/02_advanced/original-conversion.csv
# RALCGlyphConversionSheetFile /var/roundabout/conf/glyph-conversion.csv
# RALCGlyphConversionSheetFile /usr/local/apache2/htdocs/samples/02_advanced/sample05/glyph-conversion.csv
#</Location>
```

設定変更後、Apache を再起動してください。

## 「上級編 サンプル 06 – BIKE KING(QVGA)」を正しく表示するための設定

02\_advanced sample06 は QVGA サイズで画像が作成されているため、デフォルトの RALCImageScale の設定 (VGA サイズベース) だと正しく表示されません。ここでは 02\_advanced sample06 のみ RALCImageScale の設定を QVGA ベースのスケール比率が適用されるように設定を変更します。

■roundabout-vhost.conf の<IfModule mod\_ralc.c>〜</IfModule>内の#for Samples 以下の下記設定箇所のコメントアウトを外してください。

※samples を DocumentRoot 直下以外に配置した場合は、各 Location ディレクティブ内の RALCConversionSheetFile、RALCGlyphConversionSheetFile のパスを編集してください。

※roundabout-vhost.conf 内の初期値でコメントアウトされている RALCImageScale が QVGA 用の設定です。

※設定全般に関する詳細は Apache 設定リファレンスを参照ください。

設定箇所:

```
#<Location "/samples/02_advanced/sample06/">
# RALCImageScale 1-95    0.400
# RALCImageScale 96-119 0.400
# RALCImageScale 120-224 0.500
# RALCImageScale 225-227 0.938
# RALCImageScale 228-229 0.950
# RALCImageScale 230-231 0.960
# RALCImageScale 232-233 0.968
# RALCImageScale 234-239 0.976
# RALCImageScale 240-319 1.000
# RALCImageScale 320-467 1.334
# RALCImageScale 468-479 1.950
# RALCImageScale 480-999 2.000
#</Location>
```

設定変更後、Apache を再起動してください。

## 基本編 サンプル 01 – 画像

### サンプル01 – 画像

画像



SYMETRIC

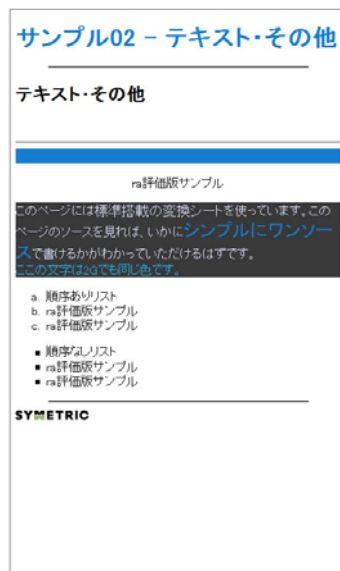
※ 画像は PC でキャプチャした画像です。

このサンプルは画像の変換をメインとするサンプルです。

画像はすべて VGA サイズで作成されています。

こちらのサンプルを QVGA 端末で見ることによってラウンドアバウトのオートスケール機能を見ることができます。

## 基本編 サンプル 02 – テキスト・その他



※ 画像は PC でキャプチャした画像です。

このサンプルはテキストに関わるタグをメインに構成したサンプルです。

AU の XHTML+外部 CSS で作成されたコンテンツです。

こちらのサンプルでキャリア間、世代間でテキストに関わるタグをどのようにラウンドアバウトはキャリア間、世代間で言語変換しているかソースを見ることによって確認できるサンプルです。

変換シートを手元におくことによって、言語変換の動きを理解できます。

## 基本編 サンプル 03 - フォーム

**サンプル03 - フォーム**

**フォーム**

入力文字種の初期値設定はra変換シートを使用しています。

istyle属性で1を指定

istyle属性で3を指定

format属性で4を指定

istyle属性で4を指定

セレクトボックス:  
選択してください ▾

ラジオボタン:  
☐ ラジオボタン1  
☐ ラジオボタン2

チェックボックス:  
☐ チェックボックス1  
☐ チェックボックス2

テキストエリア:

送信ボタン

SYMETRIC

※ 画像は PC でキャプチャした画像です。

このサンプルはフォームに関わるタグをメインに構成したサンプルです。

こちらのサンプルで istyle 属性などフォームに関わるタグをラウンドアバウトがどのようにキャリア間、世代間で変換を行っているのかソースを見ることによって確認できるサンプルです。

変換シートを手元におくことによって、言語変換の動きを理解できます。



## 基本編 サンプル 04 – リッチコンテンツ



※ 画像は PC でキャプチャした画像です。

このサンプルは基本編サンプル 01～03 とは異なり、カフェのモバイルページを想定した簡易的なサンプルになります。

このサンプルでは単純なソースで特殊な記述をすることなくラウンドアバウトでコンテンツを作成できることがわかると思います。

変換シートを手元におくことによって、言語変換の動きを理解できます。

## 基本編 サンプル 05 – Durian Channel



※ 画像は PC でキャプチャした画面のため絵文字が正しく表示されていません。

このサンプルサイトは XHTML と外部 CSS、画像は全て VGA 用サイズの 1 ソースで構成されています。言語変換についてもデフォルトで提供される変換シートのみを利用しています。

### ① テーブルレイアウトを利用した緻密なデザイン

この箇所はテーブルと VGA 幅で計算された画像で構成されています。

通常は、画像幅毎に画像を別に作り、出し分ける必要がありますが、ラウンドアバウトのオートレイアウト機能を利用することにより、簡単に作ることができます。また、ボタンにはアニメーション GIF が使われており、アニメーション GIF に関してもラウンドアバウトではオートレイアウトすることが可能です。

テーブル非対応の端末に対しては 1 枚の大きな画像を出すように表示コントロール (PI) で出し分けを行っています。

### ② キャッシュサイズによりブロックをコメントアウト

この部分では、端末のキャッシュ容量を参照して、一定の容量以上の場合のみコメントアウトをはずし、このブロックを表示するようにしています。一定の容量以下の場合には「DecoMail」のブロック毎コメントアウトされ、表示されません。これにより、キャッシュ容量の低い端末の場合は全体の画像数が少なくなるため、1 枚辺りの画像縮小率が減り画像の劣化を抑えることができます。

またこのサンプルは変換前のコンテンツ容量が約 150KB ありますが、容量オーバーすることなく P905i などの 100KB 端末でも綺麗に表示することができます。

## 基本編 サンプル 06 – SPORTS NOW



※ 画像は PC でキャプチャした画面のため絵文字が正しく表示されていません。

このサンプルでは XHTML+CSS&VGA 用画像で構成されている以外にアフィリエイトを想定した画像や Flash コンテンツを利用しています。

### ①画像劣化を防ぐコンテンツは作り分けてオートスケールさせない

アフィリエイトのような広告画像で劣化させることなく、ブラウザ幅に合わせて出し分けを行いたい場合にはラウンドアバウト設定ファイル内の RALCImgFileDispatch で指定したファイル末尾名で出し分けを行うことができます。

※ 詳細は開発リファレンスを参照ください。

### ②Flash 対応端末と非対応端末の出し分け

ここでは Flash 対応端末には swf ファイルを表示し、Flash 非対応端末では画像を表示するようにスペック指定 PI を利用して記述してあります。`<?ra flashlite-version="0" ?>`と指定すれば Flash 非対応端末で有効となり、`<?ra flashlite-version="1.0-4.0" ?>`と記述することにより、1.0 から 4.0 までのバージョンに対応している端末に対して有効となります。なお、ここでは将来のことを想定してあらかじめ 4.0 というバージョンまで対象としています。

このサンプルでは上記以外にも float を利用したレイアウトも行っています。

## 基本編 サンプル 07 – Poptune Online Store



※ 画像は PC でキャプチャした画面のため絵文字が正しく表示されていません。

このサンプルは float を多用した EC サイト系のレイアウトになっています。  
2G 端末でもデフォルトの変換シートに手を加えることなくほとんど同じレイアウトで表示することが出来ます。

### ①左に画像、右に文言

EC サイト系で最もよく使われるレイアウトです。ここは特別に記述することなく、XHTML+CSS で float させることにより、このレイアウトを表現しています。  
2G では使えない float の代わりに align や br によって同じレイアウトを維持する変換されています。

### ②bgcolor に対応していない場合の白文字

このサンプルのコーナータイトルのように青色の背景色に白字のデザインの場合、XHTMLに対応していない2G端末で表示した時には、背景色はなくなり、文字は白のままコーナータイトルが見えなくなってしまう。それを防ぐために、文字色はCSS側で指定しています。CSSに対応していない2GではCSSが読み込まれないため、黒文字として表示され情報の欠落を防いでいます。

## 基本編 サンプル 08 – BIKE KING



※ 画像は PC でキャプチャした画面のため絵文字が正しく表示されていません。

このサンプルサイトは QVGA ベースのサイトをラウンドアバウトの開発ガイドラインである XHTML+CSS+VGA に合わせて作り変えた場合のサンプルです。2G 端末でも同様のレイアウトで見ることができます。

上級編サンプル 06 BIKEKING(QVGA)では画像は QVGA ベースでマークアップ言語は各キャリア毎になっているサンプルです。

## 上級編 サンプル 01 – アパレルオンラインストア



※画像は PC でキャプチャした画面のため絵文字が正しく表示されていません。

このサンプルでは XHTML+外部 CSS & VGA 用画像の1ソースでマルチキャリア対応を行ったサンプルです。

①ラウンドアバウトの画像変換の基本として、VGA 用の画像を作成すれば、後はラウンドアバウトが自動的に QVGA 端末には QVGA 幅に調整します。

②GIF 画像には情報として重要な要素が含まれることが多いため、JPEG 画像から先に容量を減らします。それでもキャッシュ容量以内に収まらない場合は GIF 画像の容量を減らします。容量を減らしても GIF 画像の品質をなるべく劣化させないためには画像作成時にパレット数を最小限にすることを推奨します。

③横に画像を並べるレイアウトも画面サイズに合わせて複数画像を準備する必要はありません。ラウンドアバウトが画面の横幅に合わせて相対的にサイズを調整します。これがオートレイアウト機能です。サイズ設定についてはラウンドアバウト設定ファイル内で定義されており、画面サイズに合わせてスケール比率の設定が可能です。

※詳細は設定リファレンスを参照ください。

④XHTML で作成しているので bgcolor を指定することができます。絵文字も絵文字変換シートで 3 キャリア変換を行っています。

⑤アクセスした端末の機能の有無やバージョン別に表示制御が可能です。例えば GPS 対応端末にのみ「GPS でお近くの店舗を探す」というリンクを表示することができます。



## 上級編 サンプル 02 - PCショップ



※画像は PC でキャプチャした画面のため絵文字が正しく表示されていません。

このサンプルでは XHTML+CSS & VGA 画像の1ソースでリッチなコンテンツを作成した上で、表示コントロール(PI)を利用して下位端末のケアを行っているサンプルになります。

①ロゴの直下のメニューですが素材は VGA 画像ですが、QVGA 端末で表示した際もラウンドアバウトの自動縮小スケール機能により、レイアウトを崩すことなく表示を行うことができます。

またその下の画像 4 点についてはキャッシュ容量が少ない端末では表示しないように表示コントロール(PI)で設定されているため、キャッシュ容量が低い端末でアクセスしても画像を減らすことにより極端に見劣りしないコンテンツにしています。

※表示コントロール(PI)で利用可能な端末情報については開発リファレンスを参照ください。

②float を利用したデザインがここでは行われています。CSS に対応していない FOMA 端末では自動的に style 属性が適用されます。

③ここでは XHTML ならではのデザインが行われています。「広告掲載商品」部分は VGA 用画像で作成し、bgcolor を適用しています。その下に表示されている 4 点の画像に関しても、①の時と同様にキャッシュ容量が少ない端末でアクセスしても見劣りしないように作成されています。

## 上級編 サンプル 03 – SNSプロフィール登録

roundabout SNS

プロフィール登録画面

※の付く項目は入力必須です。

会員登録情報

氏名

フリガナ

郵便番号

住所

電話番号

Eメール

ログイン情報

ログインID

パスワード

SNS情報

ニックネーム

性別

誕生日

出身

血液型

職業

自己紹介

趣味

アート鑑賞

スポーツ

ジョギング

カーデニング

読書

ゲーム

料理

車

Post URL

http://

上記の内容で登録しますか?

登録

入力内容リセット

※画像は PC でキャプチャした画面のため絵文字が正しく表示されていません。

このサンプルでは SNS や EC サイトでの個人情報入力等で多用される  
フォームの変換例です。

フォームでは事前に入力形式を指定しておく istyle 属性がありますが、これもキャリアや世代により表記の仕方や意味合いが異なります。しかし、変換シートにおいて事前にルールが決められているので、1つの書き方だけで、3 キャリアに対応することができます。

フォームのレイアウトにはテーブルを用いていますが、テーブル非対応の端末には変換シートでテーブルタグを他のタグに変換を行い、テーブルを利用しないレイアウトに切り替えています。



## 上級編 サンプル 04 – SNSマイページ



※画像は PC でキャプチャした画面のため絵文字が正しく表示されていません。

このサンプルでは情報量の多い SNS サイトをテーブルを利用したレイアウトで情報を整理して構成されたサンプルで、全体的に絵文字が多用されています。

全体にわたって使われている絵文字は絵文字変換シートにより3キャリア対応を行っています。また絵文字変換シートであらかじめ色指定を行っているので、個別に色指定を行う必要はありません。

全体のレイアウトに関してはサンプル 3 と同様にテーブルレイアウトを行っています。

画像についてはオートレイアウト機能を利用しています。

## 上級編 サンプル 05 - PC対応

1

プロフィール登録

会員登録情報

2

氏名

フリガナ

郵便番号

住所

電話番号

Eメール

ログイン情報

3

ログインID

パスワード

SNS情報

ニックネーム

性別

誕生日

出身

血液型

職業

自己紹介

男性

女性

月

日

歳

国/地区

A

B

AB

国/地区

趣味

音楽鑑賞

スポーツ

ショッピング

ガーデニング

ブログ/日記

読書

ゲーム

料理

集

http://

上記の内容で登録しますか?

登録

入力内容の修正

※ 画像は PC で表示した場合です。

※ このサンプルを正しく見るには設定ファイルの変更が必要です。詳細は p.4 参照。

このサンプルサイトは 02\_advanced sample03 をベースにモバイルサイトを PC 対応した場合の例です。テーブルレイアウトを PC 用に整えることはラウンドアバウトの表示コントロール (PI) で適用するスタイルシートを切り替えることによって行っています。

①画像の変換は行わない

PC で表示を行う場合、ラウンドアバウトは変換を行いません。そのため HTML に記述されている画像が表示されます。このサンプルの場合は VGA ベースで作成しているので VGA サイズの画像が表示されます。

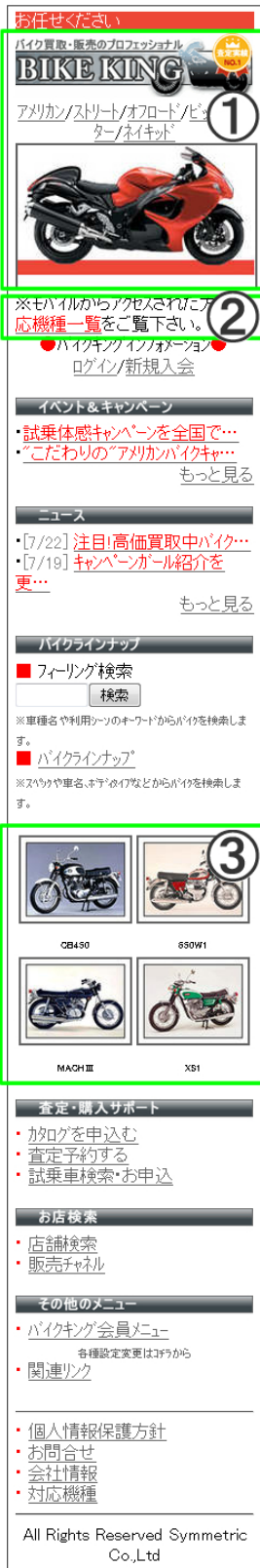
## ②絵文字をPC用の画像に

PC で表示する際、絵文字は PC 用の別の画像を表示しています。これは、絵文字変換シートで pc だった場合に別の画像を読み込むようにルールを指定しているからです。

### ③レイアウトの調整はスタイルシートで

携帯表示に合わせたレイアウトを PC に表示した際に、レイアウトが崩れてしまいます。その修正をこのサンプルサイトではアクセスした端末が PC かモバイルかによって表示コントロール (PI) でスタイルシート出し分ける方法をとりました。

## 上級編 サンプル 06 – BIKE KING(QVGA)



※ 画像は PC でキャプチャした画面のため絵文字が正しく表示されていません。

※ このサンプルを正しく見るには設定ファイルの変更が必要です。詳細は p.5 参照。

このサンプルサイトは QVGA サイズの画像で作成された各キャリア言語ベースの1ソースで構成されていて、どのソースにどのキャリアでアクセスしても同じ結果を表示することができます。言語変換は製品版で提供される各キャリア別のデフォルト変換シートを1つにまとめたものを利用しています。

### ①画像の引き伸ばし

まず、サンプル内の画像ですが、これは全て QVGA サイズの横幅で作成されています。しかし、VGA 端末でも同じように見ることができます。

これを可能にしているのがオートレイアウト機能です。オートレイアウト機能は、VGA 画像ベースにサイトを作成することを前提としていますが、QVGA ベースの既存サイトをラウンドアバウトを利用する場合にも設定を変更するだけで 1.0 倍以上に画像を引き伸ばし、レイアウトを守ることもできます。ここでの引き伸ばしは画像変換しているのではなく width="200%" のように引き伸ばしています。

このサンプルでは QVGA 端末の場合を 1.0 倍で画像を表示し、VGA 端末の場合は 2.0 倍にするという設定がラウンドアバウトの設定ファイル内で行われています。

### ②表示コントロール(PI)の排他制御

この部分では `<?ra device-group="ra:pc"?>` と `<?ra device-group="!ra:pc"?>` の二つのスペック指定 PI が利用されています。PC の時に有効な一行と、PC 以外の時に有効な一行を出し分けています。スペックを排他的に制御したい場合は `<?ra device-group="!ra:pc"?>` のように排他制御を行うことができます。

### ③端末情報で PC の情報を取得

このブロックはテーブルを利用しています。以前までのモジュールでは PC の端末情報が取得できなかったため、テーブル非対応端末扱いでしたが、今回より端末情報に PC が追加されたためテーブル対応端末として PC でも表示されるようになります。